

# 家畜衛生だより

## 国内で初めてランピースキン病が発生！

11月6日、福岡県下の乳用牛飼養農場において、国内では初めてとなるランピースキン病の発生が確認されました。

### 「ランピースキン病」

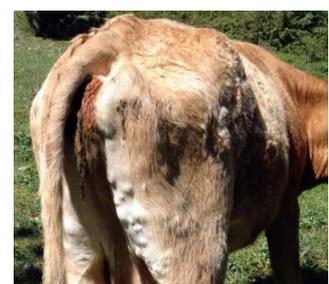
病原体：ランピースキン病ウイルス

宿主：牛、水牛（※人への感染はない）

症状：皮膚の結節や水腫、発熱ほか、泌乳ピーク期の乳牛や子牛で症状が重い、生産性低下・経済的被害大、死亡率1～5%

伝播：蚊、ハエ、ダニ、汚染された飼料・水・器具を介して感染

予防等：牛の移動制限、症状のある牛のとう汰、ワクチン接種



出展：WOAH ウェブサイト (<https://www.woah.org/en/disease/lumpy-skin-disease/>)

FAO ウェブサイト ([http://www.fao.org/fileadmin/user\\_upload/eufmd/LSD/LSD-002\\_text\\_NO\\_logos\\_2.pdf](http://www.fao.org/fileadmin/user_upload/eufmd/LSD/LSD-002_text_NO_logos_2.pdf))

### 要チェック!!

- \* 牛をよく観察。本病を疑う症状がみられた牛は隔離し、管理獣医師や家畜保健衛生所に速やかに連絡
- \* 病気を媒介する蚊、サシバエ、ヌカカ等の吸血昆虫の防除
- \* 飼養器具等の持込の際の消毒、日々の衛生的な管理
- \* 射針、人工授精用器具は1頭ごとに交換又は消毒



埼玉県中央家畜保健衛生所 (さいたま市北区别所町107-1)  
TEL：048-663-3071 (24時間、土日祝日も受付)

# ランピースキン病

Point

国内で、2024年11月6日に発生が確認されました

ランピースキン病は、ランピースキン病ウイルスによる牛の伝染病。主に、蚊、ハエ、ダニの媒介による機械的伝播や、感染した牛の移動により感染が拡大します。感染した牛は、全身の皮膚の結節や水腫、発熱、泌乳量の減少などの症状を呈し、生産性に影響を及ぼします。

## ランピースキン病を疑う症状

発熱、鼻汁  
皮膚の結節  
泌乳量の低下  
リンパ節の腫大



疑わしい場合は  
直ちに連絡！



写真提供：モンゴル国中央獣医学研究所  
(State Central Veterinary Laboratory in Mongolia)

## ランピースキン病の侵入防止対策

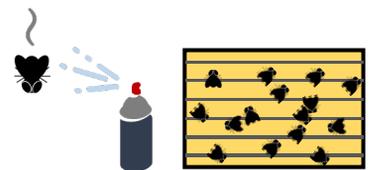
### 01 毎日の健康観察

早期発見・早期連絡が重要。  
疑わしい牛は隔離し、牛の導入、  
出荷、移動時は健康観察を徹底。



### 02 害虫の駆除

殺虫剤の散布とともに、  
粘着シート等も活用。



### 03 清掃・消毒

衛生管理区域内の整理整頓を徹底し、飼養管理に使用する器具や畜舎等の施設は清掃と消毒を実施。